

# 到着口 中央に集約 ■ワイナリー併設店も

## 伊丹空港 刷新へ着々

関西エアポートは30日、1969年の開業以来、初の大規模改修工事を行っている大阪(伊丹)空港のターミナルビルの一部を4月18日に先行開業すると発表した。伊丹空港の旅客は増加傾向にあり、利便性や商業施設としての魅力を高めて収益拡大を図る。東京五輪・パラリンピックが開かれる2020年夏までの全面開業を目指す。

(梨木美花)

### 改修ビル4月一部開業

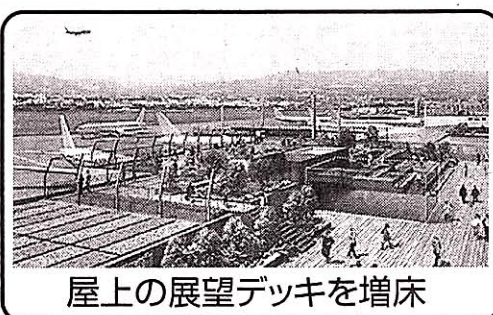
#### ■移動スムーズに

「快適性を追求し、わくわくできる空港を目指した」。関西エアの北山博常務は伊丹空港で記者会見し、改修の狙いを強調した。

4月開業の商業エリアは、ビル中央の1〜5階に30店舗が入る。世界初となる空港内でワインを醸造するワイナリーを併設したバールのほか、兵庫産の食材を

使った人気ベーカリー「ル・パン神戸北野」など関西らしさを感じられる店をそろえた。知育玩具販売会社のポーンランドが手がける子どもが遊べる施設も初出店する。

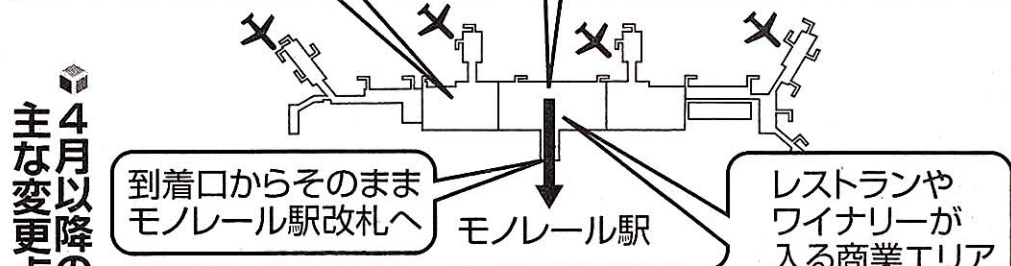
現在、ターミナル1階の南北2か所に分かれた到着口は、2階中央部分に集約し、連絡橋を通過してモノレールとの乗り換えをしやすいとする。タクシーとバスの乗り場も中央にまとめる。屋上の展望デッキも約1・5倍の7700平方メートルに広げ、イベントが開催でき



屋上の展望デッキを増床



南北に分かれていた到着口を2階中央に集約

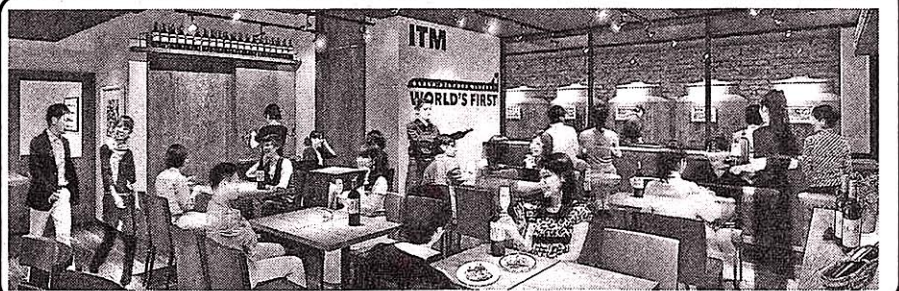


4月以降の伊丹空港の主な変更点

到着口からそのままモノレール駅改札へ

モノレール駅

レストランやワイナリーが入る商業エリア



るスペースも新設する。全面開業時には、関西国際空港で実績のある最新の保安検査機を導入するほか、搭乗口までの通路の両

側に商品を陳列する「ウォークスルー型」の店舗を導入する。保安検査の待ち時間を減らし、買い物時間を増やす戦略だ。